

其 閑

① 起筆は蔵鋒（穂先を包みこむように入れる）
 ② 横画、縦画を一ヶ所長く、伸びやかに（筆圧の緩急など）
 ③ 細く強い線は、穂先を利かせて書く

筆圧の変化 軽く力を抜く

誠 邪

やさくはねる

存

雁塔聖教序・唐時代、褚遂良の
 倣書で書いています。
 書は行書の筆意を帯びた楷書。
 点画の間は軽妙な細い線で、
 ゆったりとしていて、粘り、抑揚がある。

邪を防ぎ、心の誠を存して失わぬこと
 （易）